

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

長野県が発表した毎月人口異動調査に基づき10月1日現在の年齢別人口推移で65歳以上の割合は過去最高の33%、75歳以上の割合が初めて20%に達した

と発表した。65歳以上の人口は、昨年同期より1866人の減との数値に80歳代の知人が「知人の葬儀が近年多くなった」との話を思い出す。五木寛之さんの作品「朝顔は闇の底に咲く」の中で、アサガオが朝開くのは夜明けの光や暖かい温度のせいではなく、冷たい夜の時間と闇の濃さこそが必要。夜の間に咲く準備をする。「この闇の先に希望に満ちた明るい朝が必ず来る」と説いている。

近年知人の死を悩むのではなく、自らの残された人生の歩みを前向きな思考で積極的に社会参加することを試したいものだ。

年末恒例の「T&D 保険グループ新語・流行語大賞」の候補30ワードが発表された。

高齢期を迎えたためか、年々用語の内容の分からないワードに落ち込んでしまう。「エッチホッホ」・「チョコミント」よりも「あ・な・た」・「ラブブ」などが現代用語の基礎知識の仲間になれば、私自身も日本語を知らない日

人生の歩みには、前向きな思考が大切だ

本人になってしまつたか不安になる。物理学者のアインシュタインの名言に「人生とは自転車のようなもの。倒れないためには走らなければならぬ」がある。残された人生には色々な場面に会うだろう。

演と鑑賞で楽しい時間を過ごす事ができた。出演者は女性会員が多く、地域活性化のために女性の社会参加への大切さを痛感する。白馬村役場在職中の昭和40年代後半に老人クラブ芸能祭が三日市場公民館で行われた。カラオケの無い時代でも、会員自ら三味線を弾き、歌詞カードが無くても歌が続いた芸能祭の思い出が蘇る。今年

踊り・合唱・寸劇・踊りが続き、会場が笑顔で包まれた。芸は身を助けると言われるが、多くの芸達者の皆さんがいることに地域の力強さを感じる事ができた。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



芸能祭・飯田寿会会員の踊り「ラバンバ」メキシコの民謡の調べが会場を盛り上げる